



武 田 正 樹 議員

洪水ハザードマップは浸水初期を
シミュレーションすべきではないか

問

災害時のシミュレーションについて尋ねる。

- (1) 現状
- (2) 木曽川が決壊した場合
最初に筏川に入り、通常とは違う水量が流れ込む。筏川は決壊する恐れがあるが市の考えは。
- (3) 木曽川が決壊した場合の被害の想定
- (4) 木曽川が危険水位に達してから避難誘導に至るまでの避難計画
- (5) 水深約50cmで避難が危険になり、避難勧告を聞き遅れると逃げ遅れる。もう少し近い位置に避難場所を設定できないか。
- (6) (堤防の決壊時は)最悪ほぼ市全域が水没する。初期段階はどこが弱いか、どの程度の避難が必要かが分かってくるので、最終的な

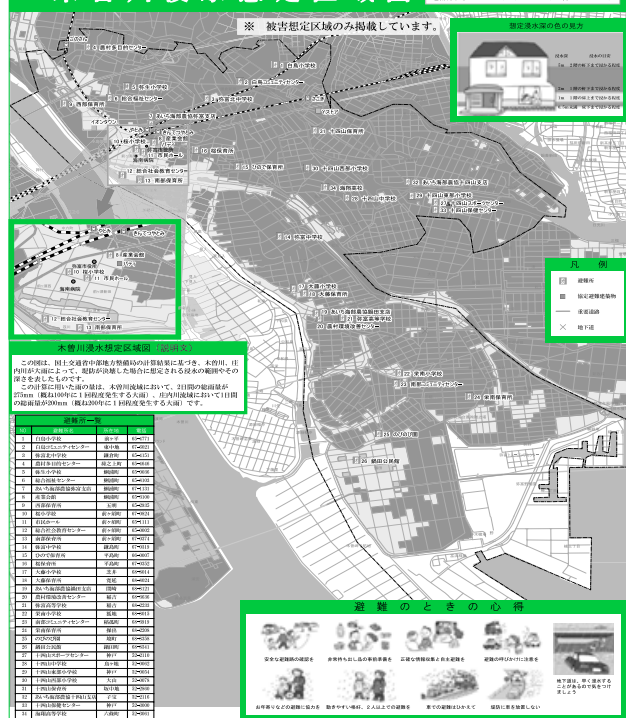
**国、県と調整し
調査研究していく**

浸水状態ではなく、初期段階の想定図はないか。

答
総務部長

- (1) 木曽川、日光川は、大雨での堤防決壊を想定し、浸水範囲、深さを表す洪水ハザードマップ
- 【注】を作成している。
- 【注】10月に全世帯へ配布されている（下図）。
- (2) 尾張大橋上流部で木曽川が決壊した場合、筏川に流れ込むことが想定される。下流部ではらんらん、決壊等が起きる可能性はあると思う。
- 現状の高低差を考えると、筏川、木曽川用水を超え、市内の北部
- 弥富市洪水ハザードマップ**

弥富市洪水ハザードマップ
木曽川浸水想定区域図



地域一円に浸水するのではないかと思う。

- (3) 一部の地域を除き、ほとんどの地域が2階の軒下まで浸水する想定をしている。
- (4) 木曽川水位は、市内と上流部数箇所水位計が設置され、リアルタイムで確認できる。危険水位等に達した場合、現場情報も得た上で避難勧告等を市災害対策本部長(＝市長)が発令する。

市民への周知方法は、消

防団のサイレン吹鳴、工事
中の同報無線とケーブルテ

レビ、広報車により速やかに周知する。

区長や自主防災組織へ電話等で避難誘導協力を求め、同時にテレビやラジオ放送を依頼し周知徹底を図る。

(5) 現在指定の避難場所があるので、さらに研究していきたい。

(6) 最近ではゲリラ豪雨が各地で発生し、予測自体が大変難しい。

今後、国や県の関係機関と十分調整しながら調査研究していく。